ビジネス学部(経済・経営・法を含む)・科目26 出席・

出席·回答率 (出席·回答者数/登録者数)

62.5%

(10/16)

設問項目別回答率

科目名

[1]

(1)あなたは、この授業にどの程度出席していますか。

ア. 毎回出席している イ. 大体出席している ウ. 半分ぐらい出席している エ. あまり出席していない

ア 60.0% イ 20.0% ウ 20.0% エ 0.0%

(2)あなたはこの授業に積極的に取り組んでいますか。

ア. かなり積極的である イ. やや積極的である ウ. やや消極的である エ. かなり消極的である

ア 30.0% イ 50.0% ウ 20.0% エ 0.0%

(3)あなたは、この授業に関する自学自習をしていますか。

ア. かなりしている イ. ある程度している ウ. あまりしていない エ. 全くしていない

ア 50.0% イ 20.0% ウ 20.0% エ 10.0%

(4)シラバスは授業の目標、内容、評価法などを示していますが、この授業を履修するのに役立ちましたか。

ア. かなり役立った イ. ある程度役立った ウ. あまり役立たなかった エ. 全く役立たなかった オ. 読まなかった

ア 30.0% イ 20.0% ウ 50.0% エ 0.0% オ 0.0%

(5)この授業内容のボリューム〈分量〉は適当ですか。

ア. かなり多い イ. やや多い ウ. 適当である エ. やや少ない オ. かなり少ない

ア 40.0% イ 50.0% ウ 10.0% エ 0.0% オ 0.0%

(6)この授業の難易度は適当ですか。

ア. かなり難しい イ. やや難しい ウ. 適当である エ. やや易しい オ. かなり易しい

ア 40.0% イ 30.0% ウ 30.0% エ 0.0% オ 0.0%

(7)担当の先生の説明は分かりやすいですか。

ア. かなり分かりやすい イ. やや分かりやすい ウ. やや分かりにくい エ. かなり分かりにくい

ア 30.0% イ 20.0% ウ 40.0% エ 10.0%

(8)テキストやレジュメなど教材はこの授業の理解に役立っていますか。

ア. かなり役立っている イ. ある程度役立っている ウ. あまり役立っていない エ. 全く役立っていない

ア 30.0% イ 40.0% ウ 20.0% エ 10.0%

(9)担当の先生は授業にあたり、毎回どの程度準備していると思われますか。

ア. かなりよく準備している イ. ある程度準備している ウ. あまり準備していない エ. 全く準備していない

ア | 50.0% イ | 20.0% ウ | 30.0% エ | 0.0%

(10) 先生の授業に対する熱意や意欲は感じられますか。

ア. かなり感じられる イ. ある程度感じられる ウ. あまり感じられない エ. 全く感じられない

ア 44.4% イ 22.2% ウ 22.2% エ 11.1%

(11)11月の授業内で、「授業改善シート」は実施されましたか。

ア. 実施された イ. 実施されなかった、または、実施時に欠席していた

ア 37.5% イ 62.5%

(12)「授業改善シート」の結果を受けて、どの程度授業が改善されましたか。

ア. かなり改善された イ. ある程度改善された ウ. あまり改善されなかった エ. 全く改善されなかった

ア 10.0% イ 60.0% ウ 20.0% エ 10.0%

(13)この授業に関する受講生の声(意見・質問)に対して、教員から何らかの説明がありましたか。

ア. かなり十分な説明があった イ. ある程度説明があった ウ. あまり説明がなかった エ. 全く説明がなかった

ア 30.0% イ 30.0% ウ 40.0% エ 0.0%

(14)この授業を受けて、学習意欲は刺激されますか。

ア. かなり刺激される イ. ある程度刺激される ウ. あまり刺激されない エ. 全く刺激されない

ア | 22.2% イ | 44.4% ウ | 33.3% エ | 0.0%

(15)この授業の内容は理解出来ますか。

ア. かなりよく理解できる イ. ある程度理解できる ウ. あまり理解できない エ. 全く理解できない

| ア | 10.0%| イ | 50.0%| ウ | 40.0%| エ | 0.0%|

(16)この授業に満足していますか。

ア. かなり満足している イ. やや満足している ウ. やや不満である エ. かなり不満である

ア | 40.0% イ | 20.0% ウ | 30.0% エ | 10.0%

(17) 自分を作り上げる努力をするうえで、この授業は役立ちますか。

ア. かなり役立つ イ. ある程度役立つ ウ. あまり役立たない エ. 全く役立たない

ア | 40.0% イ | 40.0% ウ | 20.0% エ | 0.0%

(18)あなたはこの授業を他の学生にも薦めたいですか。

ア. ぜひ薦めたい イ. できるだけ薦めたい ウ. あまり薦めたくない エ. 薦めたくない

|ア| 30.0%|イ| 40.0%|ウ| 20.0%|エ| 10.0%|

[A]この授業を履修した動機は何ですか。当てはまるものを全て選びマークしてください。

(19)専門性を高めたいから (20)興味・関心を持ったから

(21) 友達・先輩が取ったから

(22)時間割上の都合から

(23)簡単に単位が取れそうだから

(24)必修だったから

(19)	30.0%	(20)	30.0%	(21)	10.0%
(22)	20.0%	(23)	20.0%	(24)	80.0%

[B]あなたがこの授業で工夫してもらいたいと思うものを全て選びマークしてください。

(25)ビデオなど視聴覚教材の活用

(26) power pointなどのIT教材の活用

(27)上手な板書

(28) 話題や例示の妥当性

(29)この中にはない

(30)満足している

(25)	40.0%	(26)	30.0%	(27)	30.0%
(28)	20.0%	(29)	50.0%	(30)	20.0%

[C]この授業で先生とどのような手段で交流をはかりたいですか。該当するものを全て選びマークしてください。

(31)教室での対話

(32)教室外での対話

(33)e—mail

(34)オフィスアワー

(35)レポートによる感想や意見

(36)この中にはない

(37)その他

20 0% (34) 40.00/ (20) 20.0% (22) 20.0%

(31)	40.0% (32)	30.0% (33)	20.0%
(35)	20.0% (36)	20.0% (37)	30.0%

1)自己評価

ベーシック数理 I は、判断数理と数的処理の基礎事項を、問題演習形式で学習する科目である。毎回、3題から5 題の課題に取り組み、用紙に解答を記述して提出することを必修としている。提出枚数を出席点とすることを、明言し ていることもあって、昨年度よりは出席率の改善が見られた。シラバスでは、中間と期末の2回の試験をするとした が、これでも範囲が広くなるようであるから、セメスター内の15回の授業を、5回ずつの3部に分割して、各部では4 回の授業を行った後、5回目に各自が作成した解答集を返却し、自分の解答を見ながら、類題による確認テストを実 施した。このように、成績評価の手続を明示したことは、「授業に積極的に取り組んでいるか」を問うアンケート項目 【1】(2)において、「かなり積極」と「やや積極」を合わせた回答が80%になっていることに表れていると考えられる。 反省点としては、分野によって適切な量の問題を準備できなかった回に、90分の授業時間を有効に活用できなかっ たことが挙げられる。

②評価に対する教員の思い

「授業内容の分量」を問うアンケート項目【1】(5)で、「かなり多い」と「やや多い」を合わせた回答が90%になって いるが、この点は教師の立場からは、全く納得がいかない。数理的思考を問題演習形式で学習する場合には、ひと つには学習内容(分野)に適した問題の選択と、また一方では学習者の理解度に応じた適切な質と量の問題を準備 することが、授業の成否を決定する。①の最後に反省点として書いたように、適切な量の問題を準備することが困難 であった回もあったので、決して授業内容の分量は多いとは考えていない。むしろ、「授業の難易度」を問うアンケ・ 項目【1】(6)で、「かなり難しい」と「やや難しい」を合わせた回答が70%になっていることが、授業内容の分量を多い と感じさせているのであろう。とは言え、数理的思考の学習としては、現況の水準を下げることは考えられない。【1】 (7)の回答で50%が、説明はある程度わかりやすいと評価しているので、この比率を上げるようにしなければならな い。

③より充実した授業のために・・・自己評価を踏まえての目標と課題

ベーシック数理 I では、高校まで単元ごとに細分化して学習してきた算数・数学の内容が、社会の現場ではどのよ うに総合して活用されるかを教示することを目的としている。しかも、解説や説明を主体にした授業ではなく、問題演 習形式を主体にした授業構成を目標としている。そのため、できるだけ予備知識を必要としないで、直接に取り組め る問題でありながら、判断推理と数的処理の基礎を学習するのに適切な質と量の問題を充実することが必須であ る。そこで今回の授業経験を踏まえて、教科書の改訂を昨年に引き続き実施する予定である。さらには、「学習意欲 が刺激されるか」を問うアンケート項目の【1】(14)において、評価が2分しているが、数理的思考への興味を喚起す るためには、思わぬ状況で数理的思考が有効に機能することを示すエピソードを話せるとよいのだろう。学生が思わ ず耳を傾けたくなる話題を収集できればと考えている。

※①②③に記載された内容については、学生に対しては、科目名・教員名を記載し学内webにて 公表します。

学外への公表については、教員名を消し、科目名を(例)「学部・科目1」という表記にして公開します。